
風の魔導師

汐渚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風の魔導師

【Nコード】

N4493BA

【作者名】

汐渚

【あらすじ】

全ての物は化学や物理で実証され、事象はすべて数学で計算される今この頃。

剣や魔法の世界はゲームやファンタジーの中だけ。そんなもの存在しない。

ここに、この世界の全てが灰色に見えて、何もかもがつまらないと感じる少女がいた。

彼女の名前はユカ。

夢見る彼女が唯一興味を持っているのは、「魔法」というものだった

彼女が自分自身の真実を知った時、運命の歯車が動きはじめる。

例えばそれが…どのような結末だとしても。

プロローグ（前書き）

昔、別の小説サイトで投稿していましたが、友人に誘われてリハビリのために書いてます。

ちなみに、元々はRPGゲームを作るために作られた物語です。

よろしければよろしくお願いしますm()m

プロローグ

日の光が赤くなり、太陽が傾く夕時。

「ねーねー、おじいちゃん！」

「…なんだい？」

おじいちゃん、と呼ばれた老人はベットから上半身を起こし、小学生くらいの少女をゆったりとした笑顔で見た。

「またあのお話ししてよー！」

「ほんつとくにユカは好きだよなあ……」

ため息と共に、少女と同じくらいの少年が口を尖らせて言う。

「よしやくんは黙っててよー！」

少女が怒鳴ると「よしや」と呼ばれた少年はへいへい、とボソボソ呟き、床に座り直した。

「ユカ、友達にはキツく当たっちゃダメだよ？」

「はーいー！」

「ユカはじーさんには、すなおだよなあ……」

「うるさいやつー！……でせよ、早くしてよー！」

少年ももう諦めたのか、呆れたのか定かでは無いが反論しなくなつた。

「そうだな……」

この老人の話はとても神秘的だった。

魔法と共に暮らす人々や街のこと、この地球^{ほし}では有り得ない生き物^{モンスター}やそれと戦う人々の話……などなど、その老人の話は尽きず、特にユカと呼ばれた少女は毎日、学校から帰つてくるとすぐにランドセルを放り投げ、友人の義哉^{よしや}、先ほどの少年を引き連れ、自分の祖父の元に走って行き、夕飯の時間になるまで聞き入るのが日課になっていた。

…一方の義哉はというと、やはり思いつ切り遊びたい時期、みんなと一緒にサッカーや野球や集まってゲームなどをしたかったが、なんだかんだでユカと一緒に話を聞くのが楽しかったし、何より彼はユカに少し気があったため、毎日呼ばれてる身の彼としてはもしかしてユカは自分のことが……という思いがあったのかもしれない。もっともユカはただ友人の一人で、自分の言うことをある程度聞いてくれ、かなり親しかったため連れていただけなのだが。

「……そろそろ夕飯じゃな、二人とも、そろそろ行きなさい」

もう陽も落ち、あたりは暗くなっていた。

「はーい！あ、よしやくんちょっと話があるんだけど……来てくれる……？」

「ん…？いいけど？」

そのまま、ユカは義哉を連れて部屋の外へ出て行った。

「……若さとは…いいものじゃな…」

残されたか細い老人は独りそう、呟いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4493ba/>

風の魔導師

2012年1月12日01時57分発行